

## [V] 「論文」 試験問題解答のポイントと解答例

論文試験では、論題の趣旨を理解した上で、設問に的確に答えることが求められ、そのポイントは次の2点である。

- ① 論題の趣旨に合った解答が、600字～800字にまとめられているかどうか。
- ② 表現の的確性、内容の深さ、論旨の一貫性はどうか。

本年度の論文試験の論題は、「①繊維製品品質管理士の立場から、②製品の企画、製造、販売、消費の中で考えられる環境に配慮した方策について、具体的に1～2例をあげ、③あなた自身の考えを述べなさい」であり、①～③の3つについての解答が求められている。環境問題に関する個人的な感想や、マスコミなどで話題になっている技術や商品の単なる羅列などは評価されない。

記述にあたっては、濃いエンピツではっきりと文字を書くなど、他人が見て読みやすいように心掛ける。原稿用紙（よこ書き）の正しい書き方（段落をつける、段落の書き始めは1字空ける、句読点の書き方など）に則り、誤字、脱字、当て字のないようにする。一般に論文試験では箇条書きは相応しくないとされる。論題と関係ないことが書かれている場合は、字数を増やすためと見なされる。

### 解答例

人や地球環境への配慮を行ったサステナブル（持続可能な）社会への取り組みは多岐にわたる。方策も取り上げた内容により異なり、決まった正解はない。以下に解答例として2例を示す。

#### 〔解答例 1〕

環境に配慮した方策として、アパレル企業に勤務する者として繊維製品品質管理士（TES）の活動と関係が深く効果が期待される「3R」を取り上げる。3Rは、リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）のことで、リフューズ（発生回避）を加えて4Rともいう。

製品の企画段階ではリサイクルを取り上げる。繊維素材の中で最も使用量の多いポリエステルに、ペットボトルを回収して再生した再生ポリエステル繊維を積極的に取り入れる。最近、技術が進歩し、機能性を付与した銘柄も開発されている。TESとしては、通常のポリエステルと性能が同じ点、あるいは違う点を明確にして判りやすく説明し、消費者に納得してもらえるよう努める。

製造段階で発生する不良品を減らすことは、リデュースに繋がる。TESとしては、“品質は工程でつくる”をモットーに、各部門での品質管理をしっかりと行う。

販売段階では、ラベルや留め具などの削減や過剰包装の廃止など、リデュースを進める。また消費者が要らないというもの（リフューズ）を調査して、対応する。TESとしては、消費者の意向をよく聞いてきめ細かく効果的な方策を立てることが肝要である。

顧客が着なくなった製品の再利用（リユース）については、小売店に回収ボックスを設け、自社が販売したものについては割引券を発行する。自社製品であるので、製品の組成なども判っており、TESはリユース品を使う人には安心してもらえるよう丁寧な説明をする。

全社一丸となって3Rに取り組んでいる姿勢を消費者にPRする。関係する部署のTESが緊密な連絡を取り合い、的確で迅速に対処するように努める。

## 〔解答例 2〕

SDGs の取組みは、ファッション企業でも海外の動きが先行している。例えば、ZARA は 2015 年に古着回収を開始、2025 年までには持続可能な素材へ 100%切り替えを目指し、2050 年までに廃棄物ゼロ達成を表明している。

繊維製品品質管理士として関与できる製品の企画と生産の 2 分野において方策を挙げる。

### ① 企画：サンプル点数の削減と使用素材の変更を行う。

例えばパターン削減については、今後期待できる AI の活用も視野に、既存パターンデータの有効応用比率を高め、バーチャルシステムの活用により、実際の試作数を減らしていく。

素材においてはオーガニックコットン、植物由来のリヨセル（原料は木材パルプ）やキュプラ（原料はコットンリントー）や、再生ポリエステルなどの持続可能な素材の使用比率を高めていく。これらを付加価値のある素材として訴求する。

ただし課題として、パターン集約により製品種類が減るため、顧客の多様化した顧客のニーズと絞り込んだ品ぞろえは相反する面がある。また素材においては、コスト高となり、上代も上がる可能性がある。

### ② 製造：生産ロスを抑え、工程数を削減する。

ニットにおいては無縫製のホールガーメントがある。世界に先駆けた環境に配慮した取り組みと言える。しかし、ファストファッション分野の布帛縫製は労働集約性の高い海外の縫製工場に頼っている。全自動化が難しいとはいえ、ミシンを使用しない機械化した接着仕様に部分変更するなど、工程数の削減を行う。機械化により生産ロスが期待できる。

①の素材コスト上昇を吸収するために、労働賃金の安い海外の製造現場に人件費の圧縮という形で、しわ寄せがおきる可能性がある。機械化は環境面からだけでなく、SDGs における労働環境の改善にも対応できうる。

社内では、企画・製造の繊維製品品質管理士の立場から販売分野に対し、取り組みの意図と重要性について理解促進を図ることも重要である。